

加 佐

学校だより 5月号

令和2年5月7日

舞鶴市立加佐中学校

TEL 83-0004 FAX 83-3201

<http://kasa.maizuru.ed.jp/>



挑戦する力・展望する力・つながる力

薫風緑樹をわたる季節となりました。保護者・地域の皆様方におかれましては健康に留意され、感染拡大の終息に向けたお心配りを日々大切にお過ごしのことと存じます。

突然の臨時休校要請から2か月が経過しました。新型コロナウイルス感染症との臨戦態勢ともいえる緊張感の中で卒業式・年度末を経て新学期を迎え、緊急事態宣言に伴う3度目の臨時休校措置に入るところです。



日本中の学校が連続して臨時休校となる状況は、容易に予想できる未来ではありませんでした。感染症の世界的な蔓延という特異な状況下であるからこそ、柔軟に様々な事態を想定し、力を合わせて正しく生きることが強く求められます。

今後、現代社会がどのように協働し解決に至らしめるかは、次代を担う子どもたちにとって貴重な指針・生きた教材となります。正に、大人たちの腕が試される時です。地球規模の課題に対して、広く見渡し、ともに痛みを共有し、当事者意識をもって熟慮し、協同的に粘り強く最適解を探る過程は、「主体的・対話的で深い学び」そのものであり、加佐中のコラボ学習の手法と大きく変わりません。

本校の生徒たちは感染拡大防止のための正確な知識と習慣を身に付けて、正しく行動することで自分と周りの人たちを守り、健やかな成長を続けています。

度重なる休校による自宅待機が、家族との関係や友達・学校・授業について改めて見つめ直す良い機会になるのならば、大きな収穫です。意識して質の高い文学や芸術、身近な自然に触れること。体を鍛えること。日々の何気ない事柄の中に隠れている小さな成功の積み重ねや、見過ごしていた幸運に改めて気づき、心が温まったり、ふと視線をあげることのできる、そうした素敵な時間をつくりたいものです。

正々堂々と自己決定で、みんなのために

そのとき何を選択するか・どちらを選ぶのかが、すなわち人生である。などといわれることがあります。さらにその後を予測する力や選択後のモチベーションの維持、周りの人たちとの関わり、相互の支援こそが重要であることはいまでもありません。

たとえ困難な局面にもくじけずに意欲を奮い立たせて対峙したり、通常以上のパフォーマンスによる成果をあげたりする場面では、ブレずに前向きに挑んでいるイメージがあります。「こうありたい。」と自ら納得したことや、「役立ちたい。」と強く願った課題に向き合うことは、やる気UP！に極めて有効です。併せて「頑張った結果、上手くいった時のイメージをもって挑む」ことが課題解決の鍵だとされています。

感染症対応の長期化に伴い「今すべきこと」をしっかりと見極め、山々を包み込む新緑の勢いにのせて、互いにあたたかく励まし合いながら、学校再開後の活動に向けてエネルギーを蓄えること。慎重に現状打開にあたることが5月の目標です。

保護者・地域の皆様方におかれましては、くれぐれもお体を大切に、お疲れを出されませんようどうぞご自愛ください。

舞鶴市立加佐中学校 校長 福本 浩介 教職員一同